

CAPNA

キャプナニュースレター54号

この1年、皆様にはどんな年だったでしょうか。

好況といわれつつも、社会の格差が広がり、政治、医療、教育、食などへの不信感がはびこるニッポン。大人にも子どもたちにとっても、ずいぶん住みにくい社会になっている気がしてなりません。民間の力がますます重要な時代になってきています。

来年CAPNAをよろしく願いいたします。

皆様、よいお年を。

Vol. 54

いつもありがとうございます、イエローレシート

● 2007年度 上半期 イオン・イエローレシートキャンペーンのご報告 ●

みなさんご存知のように、イオン各店では毎月11日のイオンデーにはレシートが黄色になります。この黄色いレシートを自分の応援したい団体のボックスへ入れるとその合計金額の1%がその団体へ還元されるという、イオン独自の「地域のボランティア活動を支援する」社会貢献活動です。登録されている団体は店舗によって異なり、その地域での活動を買い物客とイオンが応援するスタイルで、ボードへ活動報告を紹介したりイオンデーに団体のPRをすることもできます。

＜各店より下記助成金額にて次の品物をいただきました＞ 順不同
熱田店 (16,670円 USBメモリーなど)・扶桑店 (11,000円 コーヒー、紅茶など)・
瀬戸みずの店 (9,200円 コピー用紙など)・高橋店 (20,000円 下期と合算予定)・
豊田店 (6,700円 ボールペンなどの事務用品)・南陽店 (2,600円 コピー用紙)・
守山店 (15,200円 ラベルなどの事務用品)・木曾川店 (8,400円 封筒)・
ワンダーシティー店 (17,000円 インク)・弥富店 (10,770円 台所マット スリッパ)・
ナゴヤドーム前店 (58,100円 住宅火災警報器 清掃道具 ファイルなど事務用品)

会務ツールを使用した
ストレンクス・アフロー
千研修会(同封チラシ
参照)の助成について

CAPNA 会員の方は、申し込み先着10名さまに限り参加費のうち、五千円を助成します。申込書の欄外にCAPNA 会員 No. ○○とお書きください。ただし、当日に返金とさせていただきますのでお振込みは定価をお願いいたします。

ご寄付

次の皆様からご寄付をいただきました。お礼申し上げます。
(オレンジリボン募金に関しては特集記事へ掲載させていただきました。)

(10月-12月分、順不同、敬称略)

【団体】パブリックリソースセンター

【個人】伊藤雅章、萬屋育子、服部恵子、今西信代、井口和美、奥野幸代、水野邦彦、堀内久美子、坂本精志、富田美菜子、聖心会修道院 他匿名3名

CAPNAニュースレター54号 (隔月刊38号)

2007年12月25日発行

発行 特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネットワーク・あいち

編集 CAPNA事務局広報チーム

事務局 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-4-4-404 TEL052(232)2880、FAX052(232)2882

民間のつながり深めよう

JaSPCAN 三重大会レポート

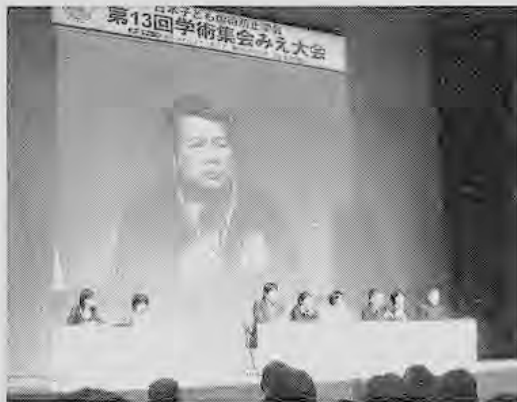
12月14、15の両日、三重県津市で日本子どもの虐待防止学会（JaSPCAN）の第13回学術集會が行われました。日本の虐待防止活動はどこまで成長したのか。3人のレポートを紹介します。

活動の共有の場を

菱田 理（理事長）

手元に一冊の抄録がある。1996年4月に行われた「全国児童虐待防止研究・大阪大会」のものだ。教育講演やシンポジウム、事例研究や自主研究といった分科会と、大会のプログラムでは現在と大きく変わっていない。この大会に私たちCAPNAでは、どのような思いで参加したのだろうか。子ども虐待がまだよくわからなかった頃、虐待から一人の子どもを救うことを思い描いていくつかの分科会に参加していったのだろうか。

この抄録を閉じて、新たに2007年の抄録を開いてみる。プログラムに大きな変化はない。しかし、分科会のテーマや一般演題に見られる多彩な内容に目を見晴らされる。虐待から子どもをどのように救うかから、子どもをどのように捉えて支援するのか、家族をどのように捉えて支援するのかと、多様に広がっている。これらの一般演題や分科会にはCAPNAの中間の発表やコーディネートに活躍する姿も見られた。私は、当日行われた国際シンポで発表された中国の子ども虐待の現状にとても驚いた。生々しい虐待による被害の写真を見せられ、これまでの中国にもっていたイメージは大きく変わった。続いて見せられた香港の子ども虐待の現状とNPOの活動に対して、メディアのあり方やNPOの多彩な活動が広がれば「子ども虐待」という問題を深刻化させないものになると感じた。



国際シンポでは中国などの現状が報告された

さらに分科会に参加して感じたことは、子ども虐待を防止する道すじにはいくつかあり、そのあらゆるところにCAPNAのメンバーが活躍しているということである。だが、この拡がりの中にあるそれぞれの点が線として結びついていくことがなければ道すじとしての意味を失うことになろう。

私たちは、電話相談を入り口にして、「発見・予防」「介入・保護」「治療・回復」「再統合・自立」というステージの中で多彩な活動をしている。このことがより鮮明に表れたのが今年のJAPSCANみえ大会だと感じている。だからこそ、この拡がりをつなぎあい、私たちの活動を振り返り共有する場を作り進んでいくことが大切になってきている。

ふたつの時

小久保 裕美（副理事長）

今回は、「ふたつの時」というテーマで感じたことを述べる。評議会にはじめて参加をし、新理事の名簿、評議員の名簿を見て、それから自己紹介する人たちの話を聞き、医師の多さと研究職の多さにも驚いた。わたし自身が研究職であるため、何を寝ぼけてと言われそうだが、これは、その場に参加してみないとわからない違和感であり、心底驚いたことなのである。そうだと、例えば、岩城さんや矢満田さんがいつも話されていたのは、このことなのだと思えた。CAPNAというNPOから参加しているということから、ミスマッチな思いをしたと思うが、このことは、はじめの評議会・理事会の印象として言葉にして残しておきたいと思った。

思い起こせば、2000年「愛知大会」は、多くの市民団体と専門職、行政の連携で行なわれた大会であった。様々な立場の人たちが、膝をつき合わせ、多くのボランティアの参加があつて開催された。あのときの、エネルギーや感じた思いをCAPNAという場でつないでいくことが大切なのだと思つた。そういう意味からも日本の市民団体をつなぐ場である「日本民間ネットワーク」を育てなくてはならない。

もうひとつ印象に残っていることは、大会2日目にオレンジリボンの配布を手伝っていたときのことである。兼田さんから、皆さん手伝ってくださいと言われていたので、その場に参加すると、CAPNAのメンバーは誰もいなかった。間違えたのかと思ひ、配布されている人に声をかけたところ、CAPNAさんにもお願いしてあるとのことだった。オレンジリボン配布しているとき、CAPNAの人に行き会った。すれ違いざまに、「今日は仕事で来ているので」と言われた。仕事？仕事？…。「私も、仕事なのだけど」と心のなかで反駁した。そうだと、ボランティアと仕事を切り離されているのだと思つた。ボランティアと仕事、仕事の延長とボランティア？不思議だけど、ボランティアを主として参集している人たちに助けられてきたCAPNAだったのだ。最近、電話相談に応募が少ないと聞く。不景気は生活のあらゆる場面に忍び寄ってきた。価値観の転換もあり、誰もが働く社会になったといえよう。これからは、仕事の延長線上にCAPNAの活動もありとして活動を提案する必要があると感じた時だった。

民間ネットをアピール

兼田 智彦（専務理事）

愛知の隣で、車で約1時間。津市で開かれた日本子ども虐待防止学会みえ大会に参加しました。

例年のように、菱田理事長と朝早く会場へ行きパネル展示を完成。続いて書籍販売の準備をしました。毎年会う本屋さんとも情報交換し、売れ行きを予測。全体会はアジアの虐待の現状。中国はかなり大変のようでした。残念なこと中国ではNPOがないとのこと、健全な市民社会にとってNPOの存在は欠かせないと思えるのでした。

毎年、有志で夕方に行われていた民間団体の自主企画を今年から日本子どもの虐待防止民間ネットワークが担当することになりました。今年のテーマは「NPOと行政の協働」東京からは里親さんの研修、と専門家への支援、愛知からは委託事業について、事務局から「全国一斉 子育て・虐待防止ホットライン」の統計を報告しました。15日間で1027件がかかりそのうち271件の相談を受けることができました。

2日目はみつみえの松岡さんの企画で行われた「民間団体が取り組む虐待防止活動の課題と可能性」の分科会で話題提供。日本子どもの虐待防止民間ネットワークの3年間の活動と全国の動向、今後の課題などについて報告しました。

来年は広島で行われますので、ぜひ皆様ご参加ください。

家族えん会議

家族とコミュニティのエンパワメント

11月28日 講師:森田ゆり (エンパワメント・センター主宰)

一昨年よりCAPNAは、名古屋市の委託を受けて関係機関の専門性向上を図るための研修を行ってきました。今年度も、第1回目の名古屋市児童虐待防止研修会が女性会館で行われました。

研修に参加して

「家族えん会議」とは、関係機関が家族をよんで開催する会議とは違い、家族が関係機関の人々を招待するという考え方に基づく話し合いです。こうした当事者参加型の問題解決法は、現在では児童福祉分野以外にも広く適用されています。森田さんは児童虐待防止の他に加害者と被害者の会議も行っておられるそうです。「家族えん会議」のえんという言葉には、サークルを意味するえんとつながりを意味する縁、そして内なる力を引き出すことを意味するエンパワメントの思いがこめられているとのこと。家族や支援者の意見を尊重し、それぞれの持つ力を最大限に使って、子どもが安心して安全に生活できるようにするにはどうしたらよいかを考えていきます。会議は自己紹介、話し合いの目的と約束事(参加、尊重、守秘)の確認の後、三つのステージに分けて行われます。第一ステージでは家族と支援者に関係機関やファシリテーターを加え、子どもをどのように守っていくかを考えます。第二ステージでは家族と支援者で食事をしながら、一人ひとりができることを出し合います。そして第三ステージでは再びファシリテーターなども加わって、家族の決定を基に最終的な話し合いをします。決めた内容がしっかりと実行されるようにモニター役もさだめ、決定事項を後日参加者に送るという徹底ぶりから、子どもを守るためには実行可能性が高く、具体的なプランニングが不可欠だと改めて実感しました。また、参加できない場合も子どもの席を設ける点は、何のために集まっているかを参加者に意識してもらおう上でとても大切だと感じました。そして心配なことだけでなく、安心なことにも注目したり、前向きな言葉を使うように心がけるということも、とても意味のあることだと気づかされました。(山下)

見守り訪問員養成講座

昨年、主任児童委員や保健師など母子保健関係者に対して行い好評だった県委託事業の「見守り訪問員養成講座」。今年度も現場で活躍中のみなさんにフォローアップ研修を4回設定し支えています。

* 11/16 「うまくいっていること、困っていること」

講師:井上薫 (同朋大学准教授)

* 11/22 「気になる親子を支援につなぐ」

講師:武田信子 (臨床心理士)

* 12/10 「家庭訪問の原則」

講師:ヘネシー澄子

(関西学院大学客員教授)

* 1/25 「親を理解する~親のタイプ別対応~」

講師:徳永雅子(徳永家族問題相談室)

~フォローアップ研修進行中~

参加者のアンケートより

- ・ 皆も同じように迷いながら支援しているなど思った。
- ・ 子育て支援ではネットワークを作ることが大切。
- ・ 情報が新鮮で学ぶ意欲につながった。
- ・ 自分に出来ること、役割の認識。
- ・ 多角的に見ることで解決方法が広がるんだと思った。
- ・ 自分の意見を押し付けるのではなくてお母さんの話を聴く。

CAPNA では愛知県より委託を受けて「児童虐待防止セミナー実施事業」を行っています。既に2つのセミナーが好評のうちに終了しました。そのセミナーの内容についてお知らせいたします。

10月4日 : 愛知県自治センター会議室 (助産師、保健師など87名参加)

『 「乳幼児揺さぶられ症候群」の予防、発見、対応 』 講師 山田不二子氏 (医師)

乳幼児揺さぶられ症候群 (SBS) とは...

赤ちゃんがいつまでも泣きやみそうにないとき、親やそのほかの養育者が自制心を失ってしまい、赤ちゃんを何とか泣きやませようとして暴力的に揺さぶって、そのあと、ぐいと押ししたり、ポンと放り投げて頭部に衝撃を与えたりした結果、頭蓋内出血と脳浮腫、網膜出血、その他の外傷(肋骨骨折や長骨骨折(上肢や下肢)骨折)をひきおこし、死亡または深刻な後遺症を呈することをいう。ひざの上でピョンピョンさせたり、ソファや家具からの落下、「高い高い」をするだけではないことが実証されている。なぜならば揺さぶられるとき、「行って帰って」を1サイクルとすると、実に1秒間に2~4サイクルのスピードになる考えられ、暴力的揺さぶりによってのみ発生することがわかっている。また、揺さぶられた時の赤ちゃんが経験する力の大きさは、大人が900kgのゴリラに揺さぶられるのに匹敵するという。SBS被害児の大半は6ヶ月未満の乳児である。頭部が重くて頸部の筋肉が弱いので、強く速く揺さぶられると自分の力で支えることが出来ず、頭脳へのダメージが強くなるのである。

赤ちゃんの泣き声にイライラして怒りを感じたり、自制心を失うことは誰にでもあること。でも揺さぶっても解決しないことを忘れてはいけない。①赤ちゃんは自分のニーズを知らせるため(おむつ替え、ミルク、抱っこなど)に泣いているのだから、まずそのチェックをする。また、②乳児がある一定の時間泣き続けるという「泣き声発作」は全ての乳児が通る発達過程であることを認識する。そして③なだめるためのいろいろなお努力がしても効果がない場合は、赤ちゃんを安全な場所において自分はその場から離れて数分間歩き回ったりしても大丈夫だと養育者が知る。このように、その対応策を知っておくことでSBSは防ぐことができる。

10月31日 : 愛知県自治センター会議室 (市町村職員など60名参加)

『 児童虐待への対応とネットワーク 』 講師 津崎哲郎氏 (大学教授)

過去の児童虐待の変遷から始まり、津崎氏の実践に基づいた行政の体制作りへと、この問題に対して疎い私にも大変分りやすい内容だった。家庭の問題に立ち入らない警察や申請主義から抜け出しきれない行政の実状などは耳が痛い。また、「援助を必要とする人」に比べ、量・質共に深刻な「援助を必要としない人」を探し出すこと、またそういう人々にどう理解してもらい、どう対応していくのか、というのは今後、児童相談所職員の仕事として更に重要になっていくと感じた。そして今後は児童相談所の規模を拡大するだけでなく、地域の中で解決していく仕組みを作っていかなければならないのは事実だと思う。市町村という規模に頼るのではなくもう一度顔の見える近所づきあいから始まる地域社会を何とかして構築していく必要があるのではないかと強く感じた。その地域社会に学校、医療、行政機関の機能が加わってようやく虐待防止・発見・支援の仕組みができるのだと思う。また、行政の専門職に関しては数年単位での人事異動を中止し、職員の専門性を高め、組織としての専門性を高めるべきという指摘には大いに賛同したい。(I)

オレンジリボン



オレンジリボンキャンペーンとは…

2004年9月、栃木県小山市で幼い二人の兄弟が、虐待の末に橋の上から川へ投げ入れられて死亡するという事件が起きました。その事件をきっかけに、二度とこのような悲劇がおこらないようにという願いから、子どもの虐待防止を目指してオレンジリボンキャンペーンが始まりました。現在、厚生労働省との協働により、全国でこの活動が展開されています。

全国の主要都道府県では11月の「児童虐待防止推進月間」に合わせて、児童虐待防止のシンボルマークである「オレンジリボン」を普及啓発するキャンペーンが行われました。

CAPNA では名古屋市の委託を受けて以下の場所で街頭キャンペーン（オレンジリボン作成誘導と配布）を行ってきました。

- ・10/20 名古屋港つどいの広場で催された『ファミリーデーなごや』
- ・11/11 名古屋栄の久屋大通公園のもちのき広場
- ・11/24 瑞穂陸上競技場の入場口周辺

愛知県高浜市立南中学校では生徒会が中心になって「オレンジリボン運動」に取り組んでいます。

地域のショッピングセンターや南中祭、市内音楽会、未来塾公演会、学区内学芸会、ドミニーなどで募金を積極的に行っています。若いパワーに支えられ、励まされます。どうもありがとうございます！！



▲募金の様子

CAPNA ではピンバッジ、布製オレンジリボン、オレンジリボンシールを準備して『オレンジリボン募金』のご寄附を募っています。注文票を同封しました。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

オレンジリボン募金にご協力いただいたみなさまです。ありがとうございました。

(順不同、敬称略)

第16回ボランティアフェスティバルあいちなごや、愛知人間と性教育研究協議会、望月崇宏、稲沢市役所児童家庭課、家庭内暴力講演会、(株)アイトー、日本教職員組合、高浜市立南中学校、名古屋市社会福祉協議会、深見玲子、名城ローターアクト、中川区役所民生子ども課、日本アソシエイトヒーリング協会、TOKOTOKO セミナー、愛知県立一宮東養護学校、子育て子育てNPO スコップ、柳原商店街振興組合、上小田井保育園、知立市役所子ども課

他匿名4名

キャンペーン！

柳原公園リニューアルオープン式典 スケジュール

午前十一時より午後4時まで

- 一、ブレイベント 北誠の風(大道芸)
 - 二、休憩 焼きそばとたません
 - 三、オープニング 太鼓
 - 四、防犯の話 北警察署生活安全課
 - 五、ダブルダッチによる演技と大縄跳び
 - 六、北風の誠
 - 七、名古屋グランパス選手のトークショー
(先着500名様サイン色紙もらえます)
- 主催 柳原商店街振興組合
協力 名古屋子ども青少年局子ども育成課
北区まちづくり推進室
清水学区自治連合会
子育て支援のNPOまめっこ
子どもの虐待防止ネットワーク・あいち
- 後援 第8自治会
第10自治会

以上

2007.12.2 オレンジリボンキャンペーン in 柳原公園 1日密着レポート



名古屋城から東北に少し進むと柳原商店街があります。毎年夏祭りには、通行止めにして盆踊りありパレードあり、福引き券の抽選会場ありで賑やかです。ドラゴンズやグランパス、防犯の旗がパタパタと揺れていて気になっていました。そんな商店街の中に柳原公園があります。すべり台・ブランコ・砂場など一見普通の公園ですが、このほど「子育て支援公園」名古屋第1号としてリニューアル記念式典が催されたので興味津々で参加しました。

よく見てみると、ブランコはしっかりお尻が入るようなイスになっていたり、ボール遊びに興じるお兄ちゃんたちのボールがいきなり飛んでこないように砂場に小さなフェンスが設けられていたり、もちろんちゃんと禁煙コーナーになっています。さて柳原商店街の中には、NPO法人まめっこが運営する子育てサロン「遊モア」があって小さな子どもとお父さんお母さんの出合いの場になっています。お年寄りが目立つ商店街ですが、公園は様々な年代の人たちが憩う場だからこそ、親子だけでなくお年寄りなどとも交流できる場であってほしいと思いました。会場にはオレンジのリボンがよく映えた真っ白のクリスマスツリーが立っていて来場者がメッセージカードを書いて飾っていました。地域の大人たちに見守られて育つ子どもたちは安心感に包まれて、それは成長したとき室になるなど改めて感じました。

(一柳)